■小田野直武　　画家。平賀源内に見出され，「解体新書」の挿絵を担当，秋田蘭画の中心になるも，遠慮謹慎となり憤死。
おだのなおたけ
・・・・・・1749＝　　陸奥国角館で，秋田藩主佐竹氏の代々家臣の小田野直賢の第四子に生まれる。

徳川吉宗没・1751＝ 2歳：
_生まれつき絵の才があり，

_狩野派の画風に倣って，

源内物産会・1757＝ 8歳：この頃には，_「釈迦涅槃図」「摩利支天像」を巧みに描き，
宝暦事件・・1758＝ 9歳：

大岡忠光没・1760＝11歳：「神農像」を描き，

忠臣蔵大当り1766＝17歳：_鈴木春信風浮世絵の影響の見られる「花下美人図」などを描くうち，
意次側用人・1767＝18歳：

御蔭参流行・1771＝22歳：この頃，_秋田に入ってきた新たな傾向の画風に惹かれて，さまざまな絵を描くようになり，
田沼意次老中1772＝23歳：
大原騒動・・1773＝24歳：この年，*秋田藩に招かれて鉱山探索途中に角館に宿をとった平賀源内に，屏風絵を認められて招かれ，西洋の陰影法を教えられたとも伝えられ，源内の推挙か，まもなく，藩主佐竹曙山から呼び出され，江戸で洋画法を研修できるよう，銅山方産物方吟味役として江戸屋敷詰めを命じられ，源内のもとに出入りし，
解体新書・・1774＝25歳：*杉田玄白に依頼されて，この年刊行する「解体新書」の木版のため，西洋の諸文献から解剖図を写し取る。以後，代表作となる「不忍池図」はじめ，集中的に洋風画を描いて，
雨月物語刊・1776＝27歳：
・・・・・・1777＝28歳：*一旦帰藩し，藩主佐竹曙山と角館所預佐竹義躬に洋風画を伝授して，
ﾛｼｱ船蝦夷来 1778＝29歳：_再び江戸にでるが，
源内獄中死・1779＝30歳：*藩主佐竹曙山から遠慮謹慎を命じられ，源内の励ましを得て帰藩したものの，
・・・・・・1780＝31歳：_赦されず，没した(自害説も)。
洋風画は藩士の間にも流行し，のちに"秋田蘭画"といわれる画期を現出することになる。

「人づくり風土記(秋田)」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，